

授業科目 相談援助論 I

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	社会
河野 聖夫		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GI0】 社会福祉士を含むソーシャルワーカーの役割を学び、ソーシャルワークの意義と機能について理解する。 相談援助を中心としたソーシャルワーク実践の概念や理念、範囲などについて理解する。 これらを通じて社会福祉士としての実践に必要な基本的な視点、考え方など実践基盤の習得を目指していく。					
【学習目標】 1 社会福祉士、精神保健福祉士などソーシャルワーカーの役割と専門性、その意義を理解する。 2 相談援助の概念や範囲、理念を学び、ソーシャルワークの基本視点、基本姿勢を理解する。 3 相談援助およびソーシャルワークの基本概念を理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション				社会福祉専門職と専門技術について考える
2	社会福祉士とソーシャルワーカー				第1章社会福祉士の役割と意義
3	生活問題とソーシャルワーク				第1章現代社会と地域生活
4	ソーシャルワークとは何か				第2章ソーシャルワークの概念
5	ソーシャルワークの構成要素				第2章ソーシャルワークの構成要素
6	ソーシャルワークの歴史 発生期				第3章ソーシャルワークの源流
7	ソーシャルワークの歴史 確立期				第3章ソーシャルワークの基礎確立期
8	ソーシャルワークの歴史 発展と展開				第4章相談援助の形成過程
9	ジェネラリスト・ソーシャルワーク				第4章相談援助の形成過程
10	ソーシャルワークの価値				第5章ソーシャルワーカーと価値
11	ソーシャルワーカーの倫理				第5章ソーシャルワーク実践と価値
12	ソーシャルワークと権利擁護				第5章ソーシャルワーク実践と権利擁護
13	ソーシャルワークの基本視点				第6章クライアントの尊厳と自己決定
14	ソーシャルワークの基本姿勢				第6章ノーマライゼーションと社会的包摂
15	まとめ				総括と振り返り
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		6 相談援助の基盤と専門職		社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規 新刊予定
参考書		ソーシャルワーク実践の基礎理論		北島英治 渡部律子 他編	有斐閣 2002・1,900円＋税
その他の資料					
【評価方法】 定期試験			【履修上の留意点】 テキストを読んでから授業を受ける		